

129 群衆への教え(3)

ルカによる福音書 13 : 10~21

▶安息日に、腰の曲がった婦人をいやす (ルカによる福音書 13 : 10~17)

10 安息日に、イエスは (教会の責任者である会堂長から依頼されて) ある会堂で教えておられた。

→安息日は、週の七日目 (土曜日) で、神が天地創造の後に休んだ日である (出エジプト記 20 : 8~10)。

→会堂 (=シナゴーク synagogue) は、ユダヤ教の公的な祈禱・礼拝の会堂。ギリシア語で「集会」を意味する「シュナゴーク」に由来する。BC587/586年のユダ王国滅亡後のバビロン捕囚時代に、焼失したエルサレム神殿 (第一神殿) に代わり、祈りやモーセ五書を読み学ぶ場所となった。

→第一神殿 (ソロモン神殿)

BC1000年頃、イスラエルの二代目の王ダビデ (在位 : BC 1010~970 頃) が建設を計画し、その息子のソロモン王 (在位 : BC970~BC931 頃) によってエルサレムに建設された神殿 (ソロモンがイスラエルを支配してから4年目に建設を始め7年後に完成した)。BC587/586年、バビロン (バビロニア軍) のネブカドネツァル二世がエルサレムを占領 (エルサレム攻囲戦)、ユダヤ人はバビロンに捕囚となり、神殿も破壊された。

11 そこに、十八年間も病の霊 (NIV : a spirit/NKJV : a spirit of ^{虚弱、病弱、無気力}infirmity) に取りつかれて (→憑かれて : のりうつつて) いる女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。

12 イエスはその女を見て呼び寄せ、「婦人よ、病気は治った」と言って、

→ (N I V) “Woman, you are **set free** from your infirmity.”

(NKJV) “Woman, you are **loosed** from your infirmity.”

(文語訳) 「女よ、なんちは病より**解かれたり**」

(回復訳) 「女よ、あなたはこの病から**解放された**」 →ギリシア語 (ラビ用語) 「アポルオウ (解く)」

↓

①許可する

②自由にする

③無罪宣言をする

13 その (女の) 上に手を置かれた (NIV : he put his hands on her/ NKJV : He laid His hands on her)。

女は、たちどころに (→たちまち、直ぐに) 腰がまっすぐになり、神を賛美し (続けた) た。

14 ところが会堂長は、イエスが安息日に病人をいやされたことに腹を立て、群衆に言った (→本来は、直接、イエスに面と向かって言わなければならない)。

「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらうがよい。安息日はいけない。」

→安息日には、あらゆる労働は律法に違反するとされた (出エジプト記 20 : 9~10、申命記 5 : 13~14)。

→会堂長は祭司や聖職者、律法学者ではないが、聖書の朗読者や説教者を決め、礼拝が本来の精神や伝統にかなっているかに気を配る、大きな責任と社会的地位を持つ存在です。しかし、ここでの会堂長は、律法の教えの下、会堂の管理をし、礼拝を運営するだけの職業的宗教者になってしまっている。

⇓

15 しかし、主 (The Lord) は彼に答えて言われた。

「偽善者たちよ (NIV : You hypocrites!/NKJV : Hypocrite!)、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼う葉桶 (牛馬等の飼料を入れる容器) から解いて (→⑫12節の「アポルオウ (解く)」との関連)、水を飲ませに引いて行くではないか。(それならなおさらのこと、こうして苦しんでいる人を助けるのは当たり前のことではないか。安息日に、悪魔からの束縛を解いてやってはいけない



という理由はどこにもない。)

→偽善者：hypocrite(hipə,krit)→ play the hypocrite 猫をかぶる

→当時の農耕社会では牛やろばは農作業に使われ、非常に貴重な動物だった。

→サタン（悪魔）は、病気の原因であり、体や心の具合を悪くする原因であると考えられた。

16 この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

→アブラハムの娘：イエスをメシアとして受け入れ信じたユダヤ人の女性

17 こう言われると、反対者は皆恥じ入ったが、群衆はこぞって（→挙って：一人残らず）、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ。

▶ 「からし種」と「パン種」のたとえ（ルカによる福音書 13：18～21）

18 そこで、イエスは言われた。

「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。19 それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥（→悪霊や異端の象徴）が巣を作る。」

→たとえ（空の鳥）の警告：キリストの教えを悪用した異端の出現：エホバ、モルモン教、統一協会等

→神の国（参照：ファイル No.124）はイエスの教えそのものである。またイエスの言葉と行動のすべてであり、将来の希望としても表現されている。

→からし種の小さな黒い種は、香辛料や食物の鮮度を保つためや薬用に用いられた。

20 また言われた。

「神の国を何にたとえようか。21 パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

→たとえ（パン種）の警告：キリスト教界に広がる誤った教理

→三：①カトリック、②ギリシア正教、③プロテスタント／①ユダヤ教、②キリスト教、③イスラム教

→パン種は細かい薄黄色をしたイースト菌（酵母）で水と小麦粉（強力粉）に混ぜてこねるとパン生地が膨らみ、焼き上げると更にパンが膨らむ。

→1 サトン≒12.8 リットル≒48 カップ、3 サトン≒小麦粉 144 カップ

[注意] ファイル No.138を開くには、次のパスワード(4桁半角数字)が必要になります。→【2195】

【参考】 イエスは・・・教えておられた

		聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：教えておられた]
タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：6 / 聖句等の総数 33250 <教えておられた>6個]	
S マルコによる福音書	10:1 イエスはそこを立ち去って、ユダヤ地方とヨルダン川の向こう側に行かれた。群衆がまた集まって来たので、イエスは再びいつものように教えておられた。	
S ルカによる福音書	4:31 イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。	
S ルカによる福音書	6:6 また、ほかの安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに一人の人がいて、その右手が萎えていた。	
S ルカによる福音書	13:10 安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。	
S ルカによる福音書	19:47 毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、	
S ヨハネによる福音書	8:20 イエスは神殿の境内で教えておられたとき、宝物殿の近くでこれらのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。	

【参考】 神殿

第一神殿 (ソロモン神殿)

BC1000年頃、イスラエルの二代目の王ダビデが建設を計画し、その息子のソロモン王(在位：BC 971～BC 931年頃)によってエルサレムに建設された神殿(ソロモンがイスラエルを支配してから4年目に建設を始め7年後に完成した)。

BC 587/586年、バビロン(バビロニア軍)のネブカドネツアル二世がエルサレムを占領(エルサレム攻囲戦)、ユダヤ人はバビロンに捕囚となり、神殿も破壊された。

第二神殿 (エルサレム神殿、ヘロデ神殿) →ヘブライ語で「ヤハウエの家」と呼ばれた。

BC 539年頃、ペルシアのキュロス二世がバビロンを占領、バビロンに捕囚となっていたユダヤ人は解放され、帰国と神殿の再建を認めた。バビロンのネブカドネツアル二世によって破壊されたソロモンの第一神殿に代わって、BC 515ーダレイオス王の治世第六年(BC 516年)ーに、エルサレムの神殿の丘に建設された神殿(近隣の民による絶えざる妨害により、神殿再建の事業はBC 536年から520年まで中断を余儀なくされた→エズラ記4:4～5、6:14～15)。後、ヘロデ王(在位：BC 37年～BC 4年)がBC 20年から増改築工事を開始し、AD 64年によようやく完成したことから、ヘロデ神殿とも呼ばれる。AD70年、ローマ軍によって破壊され、現在は「嘆きの壁」と呼ばれる外壁の一部が残っている。

AD7世紀末には、この地にイスラム教のモスク(アクサ・モスクおよび岩のドーム)が建てられた。

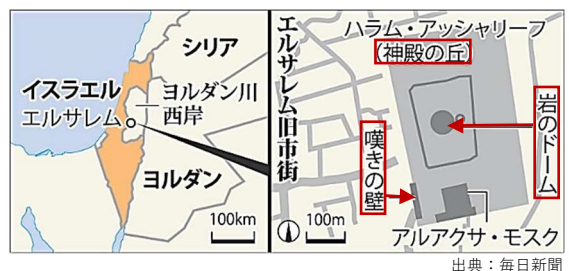
第三神殿 (未完成)

ユダヤ人がエルサレムの「神殿の丘」に再建しようとしている神殿。

大苦難(患難)時代の後半の3年半が始まる時点では、第三神殿は建設されている(ただ、預言されていない)。

「岩のドーム」(右図)は、イスラム教最大の聖地メッカのマスジド・ハラームの中心部にある「カアバ」、「預言者のモスク」(サウジアラビア西部の都市メジナにあるイスラム寺院)に次ぐ、東エルサレムにあるイスラム教の第3の聖地で、現在はイスラム教徒の管理下にある。

南西の壁の外側の一部だけが「嘆きの壁」(右上図)としてユダヤ教徒の管理下にある。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教にとって重要な関わりを持つ聖なる岩(Foundation Stone)を祀っている。



出典：毎日新聞

【参考】 からし種 (Mustard Seed)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250 (からし種)5個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: からし種]
S マタイによる福音書	13:31 イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、	
S マタイによる福音書	17:20 イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」	
S マルコによる福音書	4:31 それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、	
S ルカによる福音書	13:19 それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」	
S ルカによる福音書	17:6 主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」	

からし種は、本来は、「からし菜」(右図、木ではない)の種のことである。

→キダチタバコ: 木立煙草 (からし種、下図)

ナス科、南アメリカ原産。樹高5~6m、半常緑、黄色い筒状の花が咲く。聖書に登場する「からし種」は本来、アブラナ科のカラシナ類の「からし菜」ことですが、小さな種子から大きく生長することから、いつの間にか本種(イスラエルに古くからあったものではない。しかし、あまりにも細かい種子であるので、今日ではこれがそのからし種だと言い伝えられている)が「からし種」の俗称となった。有毒で誤って食べると下痢、嘔吐、頭痛、しびれ等、激しい中毒症状を呈する。



←ダビデの町考古学公園のからし種の木
<https://www.nikomaru.jp/acts>